

まちの出来事

激動の時代に向かって

新成人187人が新たな誓い

昭和63年4月2日から平成元年4月1日の間に生まれた新成人の門出を祝う「平成21年新成人を祝うつどい」が1月11日、市民会館で行われました。式典には市内をはじめ、市外に住む紋別出身の新成人187人が出席し、大人の第一歩を踏み出す門出を祝いました。

新成人を代表して西村望さんが宮川市長から記念品を受け取った後、佐藤元さん、神開麻希子さん、竹本



貴裕さんとともに、市民憲章を唱和。そして、加藤翔人さん、柏尾未来さんの2人が「新成人の誓い」を声を揃えて読み上げ、「命の尊さを自覚し、平和で明るく、人間味豊かな住みよいまちづくりを目指して努力します」と誓いを新たにしました。

流水の早期接岸に願い込め オホーツク流水祈願祭

オホーツク海沿岸の冬季観光の主役でもある「流水」の早期接岸を願う「オホーツク流水祈願祭」が1月13日、海洋交流館で開かれました。

網走市、斜里町、紋別市が毎年持ち回りで開催しているもので、今年で20年目を迎えます。一度大雪に見舞われ中止となったことがあるため19回目の今回は社団法人紋別観光協会が主管し、オホーツク観光連盟に加盟する団体や水産関係者を含めて約100人が流水の早期接岸を祈願しました。



参加者が玉串を捧げたほか、主催者、来賓の挨拶が行われました。続く昼食会では、鏡開き、アトラクションで元紋別保育所の子どもたちによる「クリオネダンス」や「赤いおふねのガリンコII」を歌う松本えりかさんのショーも開かれ、雰囲気盛り上げていました。

今年は、流水の勢力が平年値以下とも予想されており、

厳寒の中、準備着々と 第47回もんべつ流氷まつり 氷柱の切り出しスタート

紋別最大のイベントでもある「第47回もんべつ流氷まつり」の準備が1月16日から本格化し、氷像制作に使用される氷柱の切り出しが厳寒の中、新生の氷池でスタートしました。

大型のカッターで刻んだ氷柱(約百kg)を作業員が勢いよく引きあげていました。一日に切り出される氷柱の数は約千本。連日の作業で1万本強の氷柱が水池から会場に運び込まれ、メイン



氷像をはじめ、会場内の大小約50基の氷像に使われることとなります。



り、関係者は、早期接岸に期待を込めていました。